

水稻生育情報 (No.2)

令和3年6月11日
茨城県西農林事務所経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

【生育概況】

本年5月から6月第1半旬までの気象は、日平均気温が平年より0.6℃高く、降水量は平年比82%、日照時間は平年比82%となりました。

水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況を表1に示します。6月9日現在の生育は、草丈は平年並み～やや短く、茎数は平年並み～かなり少なく、葉色は平年並み～やや濃くなっています。

表1 水稻定点調査結果 (6月9日現在：コシヒカリ)

調査地点	田植え日 月/日	植付株数 株/坪	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色	
					葉色版	SPAD値
筑西市	5月6日	56	36.0	309	4.6	44.2
一本松	(5月2日)	(55)	(42.0)	(492)	(4.8)	(41.1)
下妻市	5月1日	48	42.0	365	5.3	44.0
加養	(5月1日)	(49)	(44.1)	(512)	(4.7)	(42.3)
桜川市	5月8日	50	35.7	380	4.7	41.5
真壁町飯塚	(5月5日)	(52)	(37.9)	(365)	(4.7)	(40.7)

()内は平成28～令和2年の5カ年平均値

【これからの栽培管理のポイント】

・中干しについて

中干し開始時期を迎えているほ場があります(目安：コシヒカリで茎数330本/m²)。分けつ盛期になると茎数は急激に増えるため、中干しの適期を逃さないようにしましょう(※詳細はR3水稻生育情報No1参照)。

・イネ縞葉枯病について

県西地域では、イネ縞葉枯病の発生が問題となっています。この病気はヒメトビウンカが媒介するウイルス病で、発病した後の治療法はありません。

ウンカは5月下旬頃から水田に飛来しますが、ウイルスを保毒したウンカがイネを吸汁することで病気に感染します。また、保毒していないウンカが感染したイネを吸汁することで新たにウイルスを保毒し、この繰り返りで被害が拡大します。

感染すると葉が縞状に黄色くなり、分けつ期には葉先がこより状に垂れ下がり枯死するか(写真1)、枯死しなかった茎でも正常に出穂しなかったり不稔となるため減収します。



写真1 イネ縞葉枯病の症状

・イネ縞葉枯病の防除について。

県病害虫防除所から5月25日付で注意報が発表され、県西地域で本病の発生が多くなることが予想されます。育苗箱施薬と併せて、本田防除を行いましょ。なお、本年はヒメトビウンカの発生は「やや早い～早い」で、本田での予測防除適期は下館地点で6月11～18日、下妻地点で6月10～17日となっています。

防除方法や薬剤等に関してご不明な点がございましたら、普及センターかお近くのJA各支店等にお問い合わせください。